

令和6年度
川崎町
財務書類
(統一的な基準)

令和8年3月

目次

I. 川崎町の財務書類の公表について	1
1. 地方公会計制度の概要.....	1
2. 川崎町の取り組み.....	2
3. 統一的な基準の特徴.....	2
4. 作成基準日.....	3
5. 作成対象とする範囲.....	3
6. 財務書類間の相互関係図.....	4
II. 総務省様式による財務書類の概要及び指標分析	5
1. 主要数値推移.....	5
令和6年度 財務書類に関する情報①.....	5
2. 指標一覧.....	5
(1) 令和6年度 財務書類に関する情報②（一般会計等に係る指標）.....	5
(2) 令和6年度 財務書類に関する情報③（一般会計等・全体・連結に係る指標）..	5
(3) 指標の説明.....	6
III. 川崎町の財務書類について	7
1. 貸借対照表.....	7
(1) 令和6年度貸借対照表（令和7年3月31日現在）.....	8
(2) 一般会計等貸借対照表の2期比較.....	10
2. 行政コスト計算書.....	14
(1) 令和6年度行政コスト計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）.....	14
(2) 一般会計等行政コスト計算書の2期比較.....	15
3. 純資産変動計算書.....	17
(1) 令和6年度純資産変動計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）.....	17
(2) 一般会計等純資産変動計算書の2期比較.....	18
4. 資金収支計算書.....	20
(1) 令和6年度資金収支計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）.....	20
(2) 一般会計等資金収支計算書の2期比較.....	21
IV. 参考資料	23
一般会計等財務書類4表.....	23

I. 川崎町の財務書類の公表について

1. 地方公会計制度の概要

国・地方公共団体の公会計制度は、これまで現金収支に着目した単式簿記が採用されてきました。ところが単式簿記は、発生主義の複式簿記を採用する企業会計と比べ、過去から積み上げた資産や負債などの状況を把握できないこと、また減価償却や引当金といった会計手続きの概念がないといった問題点が指摘されていました。

そのような中総務省では、地方の資産・債務改革の一環として、自治体の資産や債務の管理に必要な公会計をさらに整備することを目的に、「新地方公会計制度研究会」を発足させました。同研究会からは平成18年5月に「新地方公会計制度研究会報告書」が公表され、続けて同年8月には同じく総務省から「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」が示されました。

この指針では、地方公共団体の公会計の整備について、国の作成基準に準拠した新たな方式による財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）の作成及び開示を行うよう、地方公共団体に対して要請を行いました。

この要請に基づき各地方公共団体では公会計の整備を着々と進めていきましたが、総務省は新地方公会計制度の導入にあたり、「総務省方式改訂モデル」と「基準モデル」の二つのモデルを示していました。東京都は東京都方式、大阪府は大阪府方式とありましたが、複数あることで他団体比較ができない等の問題が生じていたため、平成25年8月に「研究会中間とりまとめ」が公表され、平成26年3月に「地方自治体における固定資産台帳の整備等に関する作業部会報告書」、「財務書類作成基準に関する作業部会報告書」が公表されました。

そして、平成27年1月に統一的な基準による地方公会計マニュアルが公表され、一部事務組合を含むすべての地方公共団体へこの統一的な基準での財務書類を平成30年3月までに作成するよう要請されました。

2. 川崎町の取り組み

こうした状況の中、川崎町では、平成27年度決算から町全体の財務書類を作成しています。

このことにより、現金の取引情報にとどまらず資産や負債の状況も把握できるようになりました。住民にとっても川崎町の財務状況がどういったものであるかを判断することが出来る材料の1つになっているものと考えられます。

3. 統一的な基準の特徴

統一的な基準による財務書類は、主に以下のような特徴を有しています。

- ① 会計処理方法として複式簿記・発生主義会計を採用し、一般会計等の歳入歳出データから複式仕訳を作成することにより、現金取引（歳入・歳出）のみならず、すべてのフロー情報（期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動）及びストック情報（資産・負債・純資産の期末残高）を網羅的かつ誘導的に記録・表示すること。
- ② 「経済財政運営と改革の基本方針2014～デフレから好循環拡大へ～」（平成26年6月24日閣議決定）において、「各地方公共団体の財政状況が一層比較可能となるよう、統一的な基準による地方公会計の整備を促進する。あわせて、ICTを活用して、固定資産台帳等を整備し、事業や公共施設等のマネジメントも促進する」とされたことを踏まえ、決算情報（決算分析のための情報）の作成・開示のみならず、事業や公共施設等のマネジメントの促進をも可能とする勘定科目体系を備えていること。
- ③ 各地方公共団体が、統一的な基準による財務書類を作成・開示することにより、一般的な財務状況をより多面的かつ合理的に明らかにすることを通じて、住民や議会等に対するより一層の説明責任を果たすとともに、資産債務改革や予算編成を含む行財政改革に積極的に活用され、限られた財源を「賢く使うこと」が期待されること。

4. 作成基準日

作成基準日は、各会計年度の最終日となります。今回の令和6年度決算分では令和7年3月31日となります。なお、地方公共団体に設けられている出納整理期間（翌年度4月1日から5月31日までの間）の収支については、基準日までに終了したものとみなして取り扱っています。

5. 作成対象とする範囲

区分		No.	R05
連結	全体	1	一般会計
		2	給食センター特別会計
		3	国民健康保険事業勘定特別会計
		4	後期高齢者医療特別会計
	一部事務組合等	5	福岡県田川地区消防組合
		6	田川地区斎場組合 ※1
		7	福岡県介護保険広域連合
		8	田川地区清掃施設組合 ※2
		9	福岡県後期高齢者医療広域連合
		10	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合
		11	福岡県自治会館管理組合
		12	田川広域水道企業団
		13	福岡県市町村職員退職手当組合
		14	福岡県自治振興組合
		15	田川郡東部環境衛生施設組合 ※3
		16	田川地区広域環境衛生施設組合
	第三セクター等	17	地方独立行政法人川崎町立病院
		18	株式会社川崎アグリ ※4

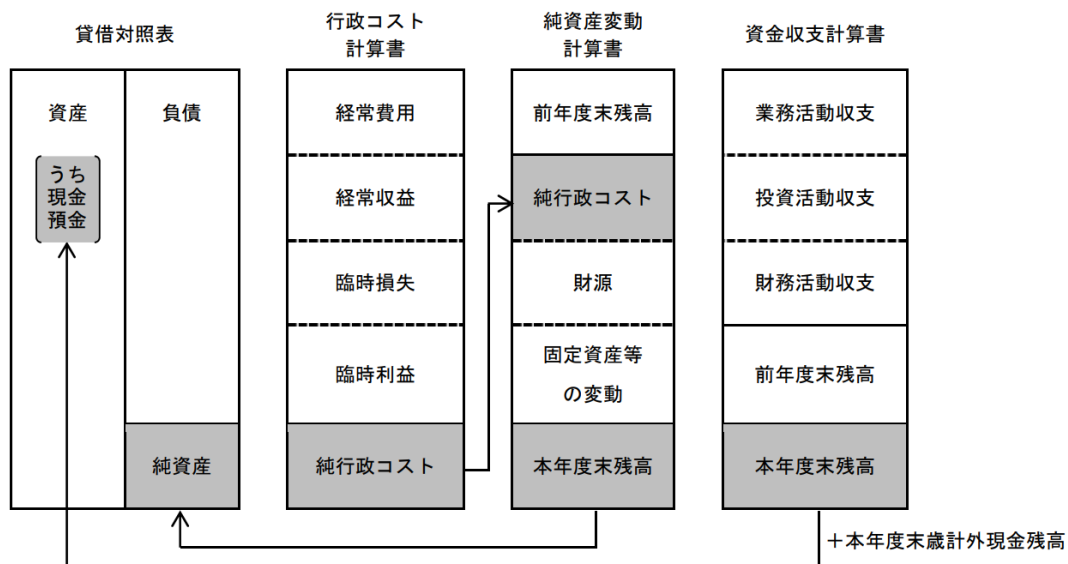
※1 R8.3.31付で解散

※2 R7.3.31付で解散

※3 R7.3.31付で脱退

※4 R7.5.20付で解散

6. 財務書類間の相互関係図



[出典：総務省「財務書類作成要領」]

- ①貸借対照表の資産のうち、「現金預金」の金額は資金収支計算書の本年度末現金預金残高と一致します。
- ②行政コスト計算書の「純行政コスト」は、純資産変動計算書の「純行政コスト」と一致します（純行政コストは純資産の減少要因となる為、純資産変動計算書上はマイナス表記となります）。
- ③貸借対照表の純資産合計の金額は、純資産変動計算書の本年度純資産残高と一致します。

II. 総務省様式による財務書類の概要及び指標分析

1. 主要数値推移

令和6年度 財務書類に関する情報①

別紙1 参照

2. 指標一覧

(1) 令和6年度 財務書類に関する情報②（一般会計等に係る指標）

別紙2 参照

(2) 令和6年度 財務書類に関する情報③（一般会計等・全体・連結に係る指標）

別紙3 参照

(3) 指標の説明

住民一人当たり資産額	資産額を住民基本台帳人口で除して住民一人当たり資産額とすることにより、資産形成度について住民等にとってわかりやすい情報となります。また、他団体との比較が容易になります。
歳入額対資産比率	当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。
有形固定資産減価償却率	有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。
純資産比率	純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動したことを意味します。例えば、純資産の減少は、現世代が将来世代にとっても利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代に負担が先送りされたことを意味し、逆に、純資産の増加は、現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味すると捉えることもできます。
将来世代負担比率	社会資本等について将来の償還等が必要な負債による形成割合（公共資産等形成充当負債の割合）を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。
住民一人当たり行政コスト	行政コスト計算書で算出される行政コストを住民基本台帳人口で除して住民一人当たり行政コストとすることにより、地方公共団体の行政活動の効率性を測定することができます。また、当該指標を類似団体と比較することで、当該団体の効率性の度合いを評価することができます。なお比較に際しては、住民一人あたり行政コストについては、地方公共団体の人口や面積、行政権能等により自ずから異なるべきものであるため、一概に他団体と比較するのではなく、類似団体と比較すべきことに留意する必要があります。
住民一人当たり負債額	負債額を住民基本台帳人口で除して住民一人当たり負債額とすることにより、持続可能性について住民にとってわかりやすい情報となります。また、他団体との比較が容易になります。
業務・投資活動収支	資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く）、及び投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となります。当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営であるといえます。
受益者負担比率	行政コスト計算書の経常収益は、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額であることから、これを経常費用と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を示す指標となります。これを経年比較したり、類似団体比較したりすることにより、当該団体の受益者負担の特徴を把握することができます。

Ⅲ. 川崎町の財務書類について

1. 貸借対照表

地方公共団体の決算書は、1年間でどのような収入がいくらあり、その収入を何にいくら使ったか、という単年度の状況は把握できますが、現在どれだけの資産や負債があるのか、という情報は把握ができません。

この貸借対照表では、基準日現在でどれだけの資産や負債があるのかを把握できます。

「資産」は、保有する資産の内容や額が記載してあります。

「負債」及び「純資産」は、「資産」を形成するためにどのような財源措置をしてきたかを表しています。

「負債」は、今後、負担すべき債務であることから将来世代に対しての負担ととらえることができ、一方で、「純資産」は、今後負担する必要性のない資産、言い換えればこれまでの世代や現在の世代、または国、県が負担した分となります。

(1) 令和6年度貸借対照表（令和7年3月31日現在）

貸借対照表

単位：千円

資産の部	一般会計等	全体	連結
1.固定資産	36,643,854	36,688,861	43,887,569
有形固定資産	29,086,853	29,086,853	38,280,691
(1) 事業用資産	21,663,719	21,663,719	22,526,106
(2) インフラ資産	7,371,237	7,371,237	15,425,233
(3) 物品	51,898	51,898	329,351
無形固定資産	38,802	38,802	1,776,049
投資その他の資産	7,518,199	7,563,207	3,830,830
(1) 投資及び出資金	4,323,396	4,323,396	110,871
(2) 投資損失引当金	△ 8,420	△ 8,420	—
(3) 長期延滞債権	585,567	633,180	637,524
(4) 長期貸付金	—	—	—
(5) 基金	2,627,807	2,628,807	3,098,148
(6) その他	—	—	606
(7) 徴収不能引当金	△ 10,151	△ 13,757	△ 16,319
2.流動資産	1,935,413	2,052,980	4,435,473
(1) 現金預金	250,250	266,481	2,086,951
(2) 未収金	45,482	65,648	313,150
(3) 短期貸付金	—	—	—
(4) 基金	1,641,223	1,723,880	2,029,265
(5) 棚卸資産	—	—	21,414
(6) その他	—	—	106
(7) 徴収不能引当金	△ 1,542	△ 3,029	△ 15,413
3.繰延資産	—	—	—
資産合計	38,579,268	38,741,842	48,323,042
負債の部	一般会計等	全体	連結
1.固定負債	13,365,526	13,469,548	19,986,984
(1) 地方債	11,088,591	11,088,591	13,185,258
(2) 長期未払金	—	—	—
(3) 退職手当引当金	2,276,935	2,380,957	2,706,278
(4) 損失補償等引当金	—	—	—
(5) その他	—	—	4,095,447
2.流動負債	1,469,852	1,474,632	2,505,131
(1) 1年以内償還予定地方債	1,218,705	1,218,705	1,296,538
(2) 未払金	—	395	918,851
(3) 未払費用	—	—	—
(4) 前受金	—	—	623
(5) 前受収益	—	—	—
(6) 賞与等引当金	134,761	139,146	163,955
(7) 預り金	116,176	116,176	123,541
(8) その他	210	210	1,623
負債合計	14,835,378	14,944,181	22,492,115
純資産の部	一般会計等	全体	連結
(1) 固定資産等形成分	38,285,077	38,412,741	45,916,834
(2) 余剰分（不足分）	△ 14,541,188	△ 14,615,081	△ 20,085,907
(3) 他団体出資等分	—	—	—
純資産合計	23,743,889	23,797,661	25,830,928
負債及び純資産合計	38,579,268	38,741,842	48,323,042

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

全体財務書類は一般会計等に地方公営事業会計を加えた財務書類です。

貸借対照表において一般会計等と全体に大きな差はありません。

連結財務書類は全体財務書類に関連団体（一部事務組合、広域連合、地方独立行政法人、地方三公社、第三セクター等）を加えた財務書類です。

全体と連結を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- インフラ資産の差額8,053,997千円
 - ・・・田川広域水道企業団分8,053,997千円
- 投資及び出資金の差額4,212,525千円
 - ・・・主に、連結対象団体への出資金の相殺消去4,318,035千円
- 地方債の差額2,174,500千円（1年以内償還予定地方債を含む）
 - ・・・主に、田川広域水道企業団分2,030,837千円

(2) 一般会計等貸借対照表の2期比較

貸借対照表

単位：千円

資産の部	R6年度末	R5年度末	差額
1.固定資産	36,643,854	36,208,319	435,535
有形固定資産	29,086,853	29,472,648	△ 385,795
(1) 事業用資産	21,663,719	22,228,891	△ 565,172
(2) インフラ資産	7,371,237	7,183,406	187,830
(3) 物品	51,898	60,350	△ 8,453
無形固定資産	38,802	51,483	△ 12,682
投資その他の資産	7,518,199	6,684,188	834,012
(1) 投資及び出資金	4,323,396	3,826,896	496,500
(2) 投資損失引当金	△ 8,420	△ 8,337	△ 83
(3) 長期延滞債権	585,567	590,505	△ 4,938
(4) 長期貸付金	—	—	—
(5) 基金	2,627,807	2,285,604	342,203
(6) その他	—	—	—
(7) 徴収不能引当金	△ 10,151	△ 10,480	330
2.流動資産	1,935,413	2,060,759	△ 125,346
(1) 現金預金	250,250	249,476	774
(2) 未収金	45,482	47,164	△ 1,681
(3) 短期貸付金	—	—	—
(4) 基金	1,641,223	1,765,771	△ 124,548
(5) 棚卸資産	—	—	—
(6) その他	—	—	—
(7) 徴収不能引当金	△ 1,542	△ 1,651	109
資産合計	38,579,268	38,269,079	310,189
負債の部	R6年度末	R5年度末	差額
1.固定負債	13,365,526	13,729,006	△ 363,480
(1) 地方債	11,088,591	11,456,695	△ 368,104
(2) 長期未払金	—	—	—
(3) 退職手当引当金	2,276,935	2,272,310	4,624
(4) 損失補償等引当金	—	—	—
(5) その他	—	—	—
2.流動負債	1,469,852	1,459,834	10,019
(1) 1年以内償還予定地方債	1,218,705	1,204,526	14,179
(2) 未払金	—	—	—
(3) 未払費用	—	—	—
(4) 前受金	—	—	—
(5) 前受収益	—	—	—
(6) 賞与等引当金	134,761	131,918	2,843
(7) 預り金	116,176	122,973	△ 6,797
(8) その他	210	416	△ 206
負債合計	14,835,378	15,188,839	△ 353,461
純資産の部	R6年度末	R5年度末	差額
(1) 固定資産等形成分	38,285,077	37,974,090	310,987
(2) 余剰分（不足分）	△ 14,541,188	△ 14,893,851	352,663
純資産合計	23,743,889	23,080,239	663,650
負債及び純資産合計	38,579,268	38,269,079	310,189

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

財務書類は、前年度や過去の複数期間と比較して異常値を把握し、当該異常値の原因を明らかにする過程で、様々な課題等が浮き彫りになる事があります。

財務書類が利害関係者に対する説明資料である以上、各数値の増減について合理的に説明する必要があります。

一般会計等の令和5年度末残高と令和6年度末残高とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 事業用資産の減少565,172千円
 - ・・・主に、減価償却によるもの
- インフラ資産の増加187,830千円
 - ・・・主に、建設仮勘定の増加133,162千円によるもの
- 投資及び出資金の増加496,500千円
 - ・・・田川広域水道企業団への追加出資による増加
- 基金の増加217,655千円（固定・流動合計）
 - ・・・主に、公共施設等整備基金の増加257,443千円
- 地方債の減少353,925千円（1年以内償還予定地方債を含む）
 - ・・・1,000,239千円の新規発行及び1,354,164千円の返済による純減

用語解説

固定資産	
事業用資産	公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産 (例：庁舎、ごみ処理施設、し尿処理施設、学校など)
インフラ資産	社会基盤となる資産 (例：道路、橋、公園、上下水道施設など)
物品	車輛、物品、美術品など
無形固定資産	ソフトウェアなど
投資及び出資金	有価証券、出資金、出捐金など
投資損失引当金	連結団体に対する出資にかかる実質価額が著しく低下した場合に計上
長期延滞債権	滞納繰越調定収入未済分
長期貸付金	自治法第 240 条第 1 項に規定する債権である貸付金 (流動資産に区分されるもの以外)
基金	流動資産に区分される以外の基金 (減債基金、その他の基金)
その他	上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
徴収不能引当金	未収金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額 (不納欠損額) を見積もったもの (固定資産分)
流動資産	
現金預金	手許現金や普通預金など
未収金	税金や使用料などの未収金
短期貸付金	貸付金のうち、翌年度に償還期限が到来するもの
基金	財政調整基金、減債基金のうち流動資産に区分されるもの
棚卸資産	売却目的保有資産
その他	上記以外及び徴収不能引当金以外のもの
徴収不能引当金	未収金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額 (不納欠損額) を見積もったもの (流動資産分)
固定負債	
地方債	地方公共団体が発行した地方債のうち、償還予定が 1 年超のもの
長期未払金	自治法第 214 条に規定する債務負担行為で確定債務とみなされるもの及びその他の確定債務のうち流動負債に区分されるもの以外
退職手当引当金	原則期末自己都合要支給額 (負担金支出により計上しない)
損失補償等引当金	履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体財政健全化法上、将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上します。
その他	上記以外の固定負債

流動負債	
1年内償還予定 地方債	地方公共団体が発行した地方債のうち、1年以内に償還予定のもの
未払金	基準日時点までに支払義務発生の原因が生じており、その金額が確定し、または合理的に見積もることができるもの
未払費用	一定の契約に従い、継続して役務の提供を受けている場合、基準日時点において既に提供された役務に対して未だその対価の支払を終えていないもの
前受金	基準日時点において、代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていないもの
前受収益	一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ提供していない役務に対し支払を受けたもの
賞与等引当金	基準日時点までの期間に対応する期末手当・勤勉手当及び法定福利費
預り金	基準日時点において、第三者から寄託された資産に係る見返負債
その他	上記以外の流動負債

2. 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、民間企業の損益計算書にあたるもので、行政運営にかかったコストのうち、例えば人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに要したコストを表したものです。また、実際に現金の支出を伴うサービスのほかに、減価償却費や退職手当引当金などの現金支出を伴わないコストまでを含んで表しています。

さらに、その行政サービスの提供に対する直接の対価である使用料や手数料といった受益者負担がどの程度あったかを把握することができます。

経常費用と経常収益の差額である純経常行政コストは、受益者負担以外の市町村税や地方交付税、国庫支出金・県支出金などで賄わなければならないコストを表すこととなります。

こうしたコストを把握することは、町の内部的には行政活動の効率性につながり、また、単年度の資産形成支出の多寡にのみ着目せず、長期的なコスト意識を醸成することにもつながるものと考えられます。さらにこれらのコストに対し、使用料等の住民負担がどうであったかを明らかにすることもできます。

(1) 令和6年度行政コスト計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

行政コスト計算書		単位：千円	
	一般会計等	全体	連結
経常費用	8,988,770	10,721,257	16,737,424
1.業務費用	5,370,300	5,556,585	7,479,980
(1) 人件費	1,725,362	1,811,719	2,727,699
(2) 物件費等	3,521,060	3,584,853	4,473,782
(3) その他の業務費用	123,878	160,013	278,500
2.移転費用	3,618,470	5,164,672	9,257,444
経常収益	750,210	756,315	1,965,482
1.使用料及び手数料	417,298	417,322	1,574,044
2.その他	332,912	338,993	391,438
純経常行政コスト	8,238,560	9,964,942	14,771,942
臨時損失	473,845	473,845	474,767
臨時利益	9,057	9,057	12,770
純行政コスト	8,703,347	10,429,729	15,233,940

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等と全体を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

➤ 移転費用の差額1,546,202千円

・・・主に、国民健康保険事業勘定特別会計の補助金等1,623,953千円

全体と連結を比較すると、主な増加項目は以下のとおりです。

- 人件費の差額 915,980 千円
 - ・・・主に、福岡県田川地区消防組合分 141,024 千円及び、川崎町立病院分 639,146 千円
- 移転費用の差額 4,092,772 千円
 - ・・・主に、福岡県後期高齢者医療連合分 2,616,871 千円、福岡県介護保険広域連合分 2,487,383 千円及び、会計間の相殺消去△1,043,232 千円
- 使用料及び手数料の差額 1,156,721 千円
 - ・・・主に、田川広域水道企業団分 311,301 千円及び川崎町立病院分 824,411 千円

(2) 一般会計等行政コスト計算書の 2 期比較

行政コスト計算書

単位：千円

	R6年度	R5年度	差額
経常費用	8,988,770	8,865,396	123,374
1.業務費用	5,370,300	5,473,793	△ 103,493
(1) 人件費	1,725,362	1,688,539	36,823
(2) 物件費等	3,521,060	3,673,971	△ 152,911
(3) その他の業務費用	123,878	111,284	12,595
2.移転費用	3,618,470	3,391,603	226,867
経常収益	750,210	696,835	53,376
1.使用料及び手数料	417,298	421,383	△ 4,084
2.その他	332,912	275,452	57,460
純経常行政コスト	8,238,560	8,168,562	69,998
臨時損失	473,845	561,157	△ 87,312
臨時利益	9,057	24,839	△ 15,782
純行政コスト	8,703,347	8,704,879	△ 1,532

※表示金額は千円単位となっており四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の令和 5 年度と令和 6 年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 物件費等の減少152,911千円
 - ・・・主に、維持補修費の減少92,954千円によるもの
- 移転費用の増加226,867千円
 - ・・・主に、社会保障給付の増加163,405千円によるもの
- 臨時損失の減少87,312千円
 - ・・・主に、コロナ対策費用及び物価高騰対応重点支援給付金の減少によるもの

用語解説

経常費用	
業務費用	
人件費	職員給与費や賞与等引当金繰入額、退職手当引当金繰入額など
物件費等	職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費（消費的性質）、施設等の維持修繕にかかる経費や減価償却費など
その他の業務費用	支払利息、徴収不能引当金繰入額、過年度分過誤納還付
移転費用	住民への補助金や生活保護費などの社会保障費、特別会計への資金移動など
経常収益	
使用料及び手数料	財・サービスの対価として使用料・手数料の形で徴収する金銭
その他	過料、預金利子など
臨時損失及び臨時利益	
臨時損失	資産除売却損など
臨時利益	資産売却益など

3. 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産が1年間でどのような要因で増減したかを表すもので、本年度純資産残高は貸借対照表の純資産合計と一致します。

行政コスト計算書には計上されていない、市町村税、国・県等からの補助金等が本表の財源に計上されています。また、「純行政コスト」の額が、行政コスト計算書の純行政コスト（「経常費用－経常収益＋臨時損失－臨時収益」）をまかなうもので、金額は一致します（純資産変動計算書上はマイナス要因です）。

(1) 令和6年度純資産変動計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

純資産変動計算書

単位：千円

	一般会計等	全体	連結
前年度末純資産残高	23,080,239	23,199,707	25,476,314
純行政コスト	△ 8,703,347	△ 10,429,729	△ 15,233,940
財源	9,372,849	11,034,031	15,708,780
(1) 税込等	6,715,908	7,108,473	10,522,794
(2) 国県等補助金	2,656,941	3,925,558	5,185,985
本年度差額	669,502	604,302	474,840
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	—	—	△ 99,068
他団体出資等分の増加	—	—	—
他団体出資等分の減少	—	—	—
比例連結割合変更に伴う差額	—	—	△ 44,860
その他	△ 5,851	△ 6,348	23,702
本年度純資産変動額	663,650	597,954	354,614
本年度純資産残高	23,743,889	23,797,661	25,830,928

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の純行政コスト8,703,347千円に対し財源は9,372,849千円であり本年度差額は669,502千円のプラスになっております。当該差額は貸借対照表の純資産へ充当され返済不要な財源の蓄積となります。

一般会計等と全体を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- 純行政コストの差額1,726,382千円
 - ・・・行政コスト計算書で記載の通り、主に移転費用の差額1,546,202千円
- 財源の差額1,661,182千円
 - ・・・各特別会計の財源の金額は以下の通りです。
 - 福岡県後期高齢者医療特別会計 275,824千円

国民健康保険事業勘定特別会計	1,711,505千円
会計間の相殺消去	△326,147千円

全体と連結を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- ▶ 純行政コストの差額4,804,211千円
 - ・・・行政コスト計算書に記載の通り、主に人件費の差額915,980千円、移転費用の差額4,092,772千円及び、使用料及び手数料の差額1,156,721千円
- ▶ 財源の差額4,674,749千円
 - ・・・主な連結対象団体の財源の金額は以下の通りです。

田川地区清掃施設組合	86,787千円
田川広域水道企業団	94,964千円
福岡県田川地区消防組合	185,877千円
福岡県後期高齢者医療連合	2,650,218千円
福岡県介護保険広域連合	2,549,391千円
川崎町立病院	62,326千円
会計間の相殺消去	△1,043,232千円

(2) 一般会計等純資産変動計算書の2期比較

純資産変動計算書

単位：千円

	R6年度	R5年度	差額
前年度末純資産残高	23,080,239	22,570,028	510,212
純行政コスト	△ 8,703,347	△ 8,704,879	1,532
財源	9,372,849	9,238,212	134,636
(1) 税込等	6,715,908	6,639,260	76,648
(2) 国県等補助金	2,656,941	2,598,953	57,988
本年度差額	669,502	533,333	136,168
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	—	△ 24,410	24,410
その他	△ 5,851	1,289	△ 7,140
本年度純資産変動額	663,650	510,212	153,439
本年度純資産残高	23,743,889	23,080,239	663,650

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の令和5年度と令和6年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- ▶ 純行政コストの減少1,532千円
 - ・・・行政コスト計算書に記載の通り、主に物件費等の減少152,911千円、臨時損失の減少87,312千円及び移転費用の増加226,867千円によるもの

- 税収等の増加76,648千円
 - ・・・主に、地方特例交付金の増加43,601千円、普通交付税金の増加38,329千円
- 国県等補助金の増加57,988千円
 - ・・・主に、民生費国庫負担金の増加92,737千円

用語解説

前年度末純資産残高	前年度末の純資産の額（前年度貸借対照表と一致）
純行政コスト	行政活動に係る費用のうち、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに係る費用
税収等	地方税、地方交付税、地方譲与税など
国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金など
資産評価差額	有価証券等の評価差額
無償所管換等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
その他	上記以外の純資産の変動（調査判明の資産など）

4. 資金収支計算書

資金収支計算書は、単年度の資金の収支を表し、1年間の資金の増減を業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支の3区分にわけ、どのような活動に資金が必要であったかを示しています。また、本年度末現金預金残高は、貸借対照表の資産の現金預金の金額と一致します。

業務活動収支は、日常の行政サービスを行う上での収支を表しています。投資活動収支は、資産形成に関する収支を言います。財務活動収支とは、地方債等の借入や償還に関する収支を言います。

(1) 令和6年度資金収支計算書（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

資金収支計算書

単位：千円

	一般会計等	全体	連結	
業務活動収支	1,536,229	1,493,468	/	
1.業務支出	7,975,302	9,677,504		
2.業務収入	9,585,519	11,244,960		
3.臨時支出	473,761	473,761		
4.臨時収入	399,774	399,774		
投資活動収支	△ 1,174,527	△ 1,165,166		
1.投資活動支出	2,212,779	2,212,779		
2.投資活動収入	1,038,252	1,047,613		
財務活動収支	△ 354,131	△ 354,131		
1.財務活動支出	1,354,581	1,354,581		
2.財務活動収入	1,000,449	1,000,449		
本年度資金収支額	7,571	△ 25,829		539,696
前年度末資金残高	126,503	176,134		1,438,055
比例連結割合変更に伴う差額	—	—		△ 8,252
本年度末資金残高	134,074	150,305	1,969,499	

前年度末歳計外現金残高	122,973	122,973	124,625
本年度歳計外現金増減額	△ 6,797	△ 6,797	△ 7,172
本年度末歳計外現金残高	116,176	116,176	117,452
本年度末現金預金残高	250,250	266,481	2,086,951

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の業務活動収支は1,536,229千円のプラス、投資活動収支は1,174,527千円のマイナスとなっています。財務活動収支は地方債の償還支出が発行収入を上回り、354,131千円のマイナスとなっています。この結果、本年度資金収支額は7,571千円のプラスとなりました。

一般会計等と全体を比較すると、主な差額要因は以下のとおりです。

- 業務支出の差額1,702,202千円
 - ・・・主に国民健康保険事業勘定特別会計分1,752,880千円
- 業務収入の差額1,659,440千円
 - ・・・国民健康保険事業勘定特別会計分1,708,411千円

資金収支計算書において全体と連結に大きな差はありません。

(2) 一般会計等資金収支計算書の2期比較

資金収支計算書

単位：千円

	R6年度	R5年度	差額
業務活動収支	1,536,229	1,385,275	150,955
1.業務支出	7,975,302	7,817,608	157,694
2.業務収入	9,585,519	9,219,986	365,533
3.臨時支出	473,761	561,082	△ 87,321
4.臨時収入	399,774	543,979	△ 144,205
投資活動収支	△ 1,174,527	△ 539,453	△ 635,074
1.投資活動支出	2,212,779	2,302,178	△ 89,399
2.投資活動収入	1,038,252	1,762,726	△ 724,473
財務活動収支	△ 354,131	△ 869,127	514,995
1.財務活動支出	1,354,581	1,558,087	△ 203,506
2.財務活動収入	1,000,449	688,960	311,489
本年度資金収支額	7,571	△ 23,304	30,876
前年度末資金残高	126,503	149,807	△ 23,304
本年度末資金残高	134,074	126,503	7,571
前年度末歳計外現金残高	122,973	99,818	23,155
本年度歳計外現金増減額	△ 6,797	23,155	△ 29,952
本年度末歳計外現金残高	116,176	122,973	△ 6,797
本年度末現金預金残高	250,250	249,476	774

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

一般会計等の令和5年度と令和6年度とを比較すると、主な増減は次のとおりです。

- 業務支出の増加157,694千円
 - ・・・主に、社会保障給付支出の増加163,405千円
- 業務収入の増加365,533千円
 - ・・・主に、国県等補助金収入の増加224,568千円
- 投資活動支出の減少89,399千円
 - ・・・主に、基金積立金支出の減少574,728千円

- 投資活動収入の減少724,473千円
 - ・・・主に、基金取崩収入の減少680,643千円
- 財務活動支出の減少203,506千円
 - ・・・地方債償還支出の減少203,237千円及び、前年度繰上充用金の減少270千円
- 財務活動収入の増加311,489千円
 - ・・・主に、地方債発行収入の増加311,695千円

用語解説

業務活動収支	
業務支出	人件費支出、物件費等支出、支払利息支出など
業務収入	税金等収入、国県等補助金のうち業務支出の財源に充当した収入、使用料及び手数料収入など
臨時支出	災害復旧事業費支出など
臨時収入	臨時にあった収入
投資活動収支	
投資活動支出	公共施設等整備費支出、基金積立金支出、投資及び出資金支出、貸付金支出など
投資活動収入	国県等補助金のうち投資活動支出の財源に充当した収入、基金取崩収入、貸付金元金回収収入、資産売却収入など
財務活動収支	
財務活動支出	地方債償還支出など
財務活動収入	地方債発行収入など

IV. 参考資料

一般会計等財務書類 4 表

一般会計等貸借対照表

(令和7年03月31日 現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	36,643,854	固定負債	13,365,526
有形固定資産	29,086,853	地方債	11,088,591
事業用資産	21,663,719	長期未払金	—
土地	12,249,599	退職手当引当金	2,276,935
立木竹	—	損失補償等引当金	—
建物	43,908,710	その他	—
建物減価償却累計額	△35,210,059	流動負債	1,469,852
工作物	3,955,219	1年内償還予定地方債	1,218,705
工作物減価償却累計額	△3,401,765	未払金	—
船舶	—	未払費用	—
船舶減価償却累計額	—	前受金	—
浮標等	—	前受収益	—
浮標等減価償却累計額	—	賞与等引当金	134,761
航空機	—	預り金	116,176
航空機減価償却累計額	—	その他	210
その他	—	負債合計	14,835,378
その他減価償却累計額	—	【純資産の部】	
建設仮勘定	162,015	固定資産等形成分	38,285,077
インフラ資産	7,371,237	余剰分（不足分）	△14,541,188
土地	352,764		
建物	794,908		
建物減価償却累計額	△148,560		
工作物	13,579,009		
工作物減価償却累計額	△7,380,518		
その他	—		
その他減価償却累計額	—		
建設仮勘定	173,634		
物品	930,751		
物品減価償却累計額	△878,853		
無形固定資産	38,802		
ソフトウェア	38,046		
その他	756		
投資その他の資産	7,518,199		
投資及び出資金	4,323,396		
有価証券	—		
出資金	4,323,396		
その他	—		
投資損失引当金	△8,420		
長期延滞債権	585,567		
長期貸付金	—		
基金	2,627,807		
減債基金	—		
その他	2,627,807		
その他	—		
徴収不能引当金	△10,150		
流動資産	1,935,413		
現金預金	250,250		
未収金	45,482		
短期貸付金	—		
基金	1,641,223		
財政調整基金	1,036,382		
減債基金	604,841		
棚卸資産	—		
その他	—		
徴収不能引当金	△1,542	純資産合計	23,743,889
資産合計	38,579,268	負債及び純資産合計	38,579,268

一般会計等行政コスト計算書

自 令和6年04月01日

至 令和7年03月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	8,988,770
業務費用	5,370,300
人件費	1,725,362
職員給与費	1,474,911
賞与等引当金繰入額	134,761
退職手当引当金繰入額	4,624
その他	111,066
物件費等	3,521,060
物件費	2,317,387
維持補修費	206,145
減価償却費	997,528
その他	-
その他の業務費用	123,878
支払利息	49,975
徴収不能引当金繰入額	8,473
その他	65,430
移転費用	3,618,470
補助金等	1,656,467
社会保障給付	1,634,320
他会計への繰出金	326,147
その他	1,536
経常収益	750,210
使用料及び手数料	417,298
その他	332,912
純経常行政コスト	8,238,560
臨時損失	473,845
災害復旧事業費	34,190
資産除売却損	1,576
投資損失引当金繰入額	83
損失補償等引当金繰入額	-
その他	437,995
臨時利益	9,057
資産売却益	9,057
その他	-
純行政コスト	8,703,347

一般会計等純資産変動計算書

自 令和6年04月01日

至 令和7年03月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産等形成分	
		固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	23,080,239	37,974,090	△14,893,851
純行政コスト(△)	△8,703,347		△8,703,347
財源	9,372,849		9,372,849
税込等	6,715,908		6,715,908
国県等補助金	2,656,941		2,656,941
本年度差額	669,502		669,502
固定資産等の変動(内部変動)		316,838	△316,838
有形固定資産等の増加		601,863	△601,863
有形固定資産等の減少		△1,000,340	1,000,340
貸付金・基金等の増加		1,658,110	△1,658,110
貸付金・基金等の減少		△942,795	942,795
資産評価差額	—	—	—
無償所管換等	—	—	—
その他	△5,851	△5,851	—
本年度純資産変動額	663,650	310,987	352,663
本年度末純資産残高	23,743,889	38,285,077	△14,541,188

一般会計等資金収支計算書

自 令和6年04月01日

至 令和7年03月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	7,975,302
業務費用支出	4,356,832
人件費支出	1,717,895
物件費等支出	2,523,531
支払利息支出	49,975
その他の支出	65,430
移転費用支出	3,618,470
補助金等支出	1,656,467
社会保障給付支出	1,634,320
他会計への繰出支出	326,147
その他の支出	1,536
業務収入	9,585,519
税込等収入	6,707,011
国県等補助金収入	2,133,079
使用料及び手数料収入	410,885
その他の収入	334,545
臨時支出	473,761
災害復旧事業費支出	34,190
その他の支出	439,571
臨時収入	399,774
業務活動収支	1,536,229
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,212,779
公共施設等整備費支出	601,863
基金積立金支出	1,114,416
投資及び出資金支出	496,500
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	1,038,252
国県等補助金収入	124,088
基金取崩収入	896,761
貸付金元金回収収入	5,534
資産売却収入	11,869
その他の収入	-
投資活動収支	△1,174,527
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,354,581
地方債償還支出	1,354,164
その他の支出	416
財務活動収入	1,000,449
地方債発行収入	1,000,239
その他の収入	210
財務活動収支	△354,131
本年度資金収支額	7,571
前年度末資金残高	126,503
本年度末資金残高	134,074
前年度末歳計外現金残高	122,973
本年度歳計外現金増減額	△6,797
本年度末歳計外現金残高	116,176
本年度末現金預金残高	250,250